

< 認知症対応型共同生活介護用 >

評価結果報告書

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	4670105107
法人名	医療法人 硯済会
事業所名	グループホーム 敬史館
訪問調査日	平成 19 年 12 月 14 日
評価確定日	平成 20 年 2 月 26 日
評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会

項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月21日

【評価実施概要】

事業所番号	4670105107
法人名	医療法人 硯済会
事業所名	グループホーム敬史館
所在地	鹿児島県鹿児島市本名町494 (電話) 99-294-1717

評価機関名	特定非営利活動法人 社会保障制度活用支援協会		
所在地	鹿児島県鹿児島市城山一丁目16番7号		
訪問調査日	平成19年12月14日	評価確定日	平成20年2月26日

【情報提供票より】(19年12月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 18年4月 1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	17 人, 非常勤 0 人, 常勤換算 17 人

(2) 建物概要

建物構造	軽量鉄骨平屋 造り		
	1 階建ての	階 ~	1 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	45,000 円	その他の経費(月額)	2,800 円
敷金	有() 円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有() 円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
または1日当たり 1000 円			

(4) 利用者の概要(12月 1日現在)

利用者人数	18 名	男性	2 名	女性	16 名
要介護1	5 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	6 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82.4 歳	最低	77 歳	最高	98 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	吉田温泉病院
---------	--------


【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な自然環境に開設2年目のグループホーム敬史館はある。地域住民との交流を考慮しながら、家庭的で利用者本位のサービスを心掛けており、笑い声や体操の声かけ、季節を感じさせる共有空間には大きな円形テーブルがあり、お互いの顔を合わせながら美味しくバランスの良い食事が食べられる。入浴は毎日でも出来る。近くに協力病院があり急変したり、重症時には医療連携体制を整えており、安心である。又希望があればふろさと訪問・墓参り・ショッピング等のサービスも受けられる等、安全な暮らしがあるホームである。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	改善点を分析して職員全員で話し合い、前向きに取り組んでいる。地域へのホーム便りの配布や公民館の行事参加・高齢者に役立つ情報提供等を行っている。又介護計画の共有や利用者の過去の経験を活かしたケアには「気づきノート」を記入して活用している。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価のねらいや意義を考慮して各項目ごとに職員全員で取り組んでいる。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	事業所からの報告・問題提起と参加者からの意見、助言を受けて改善に努めている。家族代表からの苦情も聞いている。会議の参加者との人脈が出来て話しやすくなった。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	家族の面会を週一回しており、意見交換をしている。家族会でのアンケートを参考に結果を分析してサービスの向上に向けて努力している。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	町内会に参加しており、回覧板を回したり、公民館での仕事に参加したり、ゴミ拾いを毎週木曜日にしている。ホーム便りを年4回配布してグループホーム生活を紹介している。又、児童福祉施設に利用者の作った雑巾を100枚寄付して交流をはかっている。関連施設内での夏祭りには700人くらいの人が集まり盛大である。

2. 評価結果(詳細)

( 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	常に利用者本位のサービスを心掛けており、そのために家庭的な雰囲気づくりと地域との絆を深めていくことを理念として掲げている。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎朝理念を唱和しており、ミーティング等で具体的に話し合いをして、日々のケアサービスに取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	町内会に加入しており、回覧板を持って行ったり、公民館活動にも参加している。毎週木曜日にはゴミ拾いをしたり、利用者で作った雑巾を福祉施設に寄付している。ホーム便りを年4回配布して理解を求めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	評価の意義を認識しながら職員全員で自己評価に取り組んでいる。前回の外部評価の改善点は分析して事業所の質の向上に役立てている。		
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	これまで6月と9月に開催しており、事業所からの報告と参加者からの意見や助言を受け止めて、質の向上や問題解決に役立てている。参加メンバーとの交流が深まり話し易くなった。(メンバー11名)		会議の実施回数を2ヶ月に1回程度開催してお互いの協力関係を深めることが望ましい。(メンバーは参加できる人だけでも)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村で計画した研修に参加したり、窓口での情報交換をしている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	写真入のホーム便りを毎月発行して報告している。金銭出納帳は確認印をもらっている。面会は週に1回来てもらい、情報交換している。		
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	要望内容のアンケートで意見や苦情が出しやすくなっている。その結果を運営に反映している。家族会・担当者会議・運営推進委員会等の活用もしている。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	昨年開設当初は、移動が多く入所者との馴染みの関係作りに苦労したが、過去一年間は定着率がよく引継ぎを確実にすることで馴染みの関係づくりができるようになってきた。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	年間計画を10項目に分けて作成しており、担当者を決めて実行している。研修報告書をあり、内容は口頭で伝達している。現場の教育・助言は各主任が担当している。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域の同業者4施設と交流があり、学習会・情報交換・施設訪問等をしてネットワークづくりをしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>	<p>入所1ヶ月間は不安が強く馴染めない傾向にあるので、入所前に見学や他の利用者の状況を見てもらっている。家族等と相談しながら、雰囲気に慣れてもらっている。</p>		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>利用者の得意なこと等、力量を活かしながら教えてもらったり、お互いに支えあう関係づくりがなされている。例えば食事の支度・餅つき・おはぎ・煮しめ・白和え・歌等。</p>		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>センター方式のアセスメント様式やアンケートにより本人の暮らし方や希望、意向を把握している。困難な場合には日々の介護の中での行動や表情の観察で把握している。</p>		
チームでつくる利用者本位の介護計画					
15	36	<p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>入所時は、短期計画を作成して本人・家族・職員等の意見を話し合い、2週間後に長期介護計画を作成している。</p>		
16	37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>6ヶ月毎に定期的な見直しをしている。月に1回の事例検討会や気づきノート、申し送りノート、家族の意見等で随時見直しをしている。</p>		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	協力病院との医療連携体制を整えており、看護師の毎日の訪問による健康チェックをしている。自主サービスは要望に応じて、ふる里訪問・墓参り・ショッピング・外泊等を支援している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	希望によりかかりつけ医を決めており、特殊な医院への受診もしている。(眼科・耳鼻科・皮膚科等)年に1回健康診断を受けており、主治医から説明をもらっている。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	アンケートからグループホームで終末期を迎えたい希望が多く医師・看護師・職員等で話し合い重度化に伴う意思確認書を作成しており、看取りの指針を定めている。		過去1年間に病状悪化のための入院が6名いるが、グループホームでの看取りの事例がないため、重度化に伴う状態観察や看取りに関する勉強会・家族等との意見交換を繰り返し行うことが望まれる。
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者の気持ちを思いやる言動があり、好ましい人間関係をつくっている。個人情報利用の同意書を作っており、家族に同意をもらっている。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の流れは決めているが、利用者個人のペースに合せた対応をしている。入浴は希望すれば毎日出来る。食事は嗜好調査をしている。晩酌や喫煙をしている人もいる。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	3ヶ月に1回嗜好調査をしており、食事の準備・配膳・片付けを支援しており、円形テーブルで全員顔が見え、一緒に楽しみながら食べている。		
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴の好きな方が多く、希望があれば毎日入浴できる。拒む人には家族に来てもらい、ゆっくり入浴してもらっている。		
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	買い物家族と週に2回行く人が3～4名・外食を家族としている人が5～6名楽しみにしている。料理の得意な人・農作業が得意な人、又将棋・囲碁・片付け・洗濯物たたみ等支援している。		
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ゴミだし・ゴミ拾い・畑仕事・買い物・回覧板廻し等その日の体調や希望を聞いて支援している。		希望の意思表示が出来ない人への対応等の配慮や家族への報告方法の工夫が望まれる。
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	昼間は鍵をかけていない。外出傾向にある人が2名おり、気配り目配りをしている。近くの病院や地域の人々との連携もある。		
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防火管理者が二人おり、消防署との連携も取れている。公民館長との連携もあり、昼夜別の避難訓練を定期的に行っている。消防訓練は年2回実施している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	摂取カロリーは1500kcal/日・水分摂取量は一日1500mlを基準にしている。協力病院の栄養士の指導を受けている。実際の摂取量(水分・食事)のチェックある。体重測定は月に1回している。糖尿病の人が4名おり、食べすぎに注意している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	対面式の台所・IHのコンロ・円形の大きなテーブルがあり、季節柄、クリスマスツリーが飾られており、全員で作った大きな靴下が、人数分壁にかけてある。広い廊下には手摺りがあり、バリアフリーの広いトイレ・お風呂等家庭的な雰囲気がある。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベット・箆笥・机は常備であったが、使い慣れた布団・鏡・ソファー・写真・テレビ・カレンダー等があった。洋服掛け・ベットサイドの床にセンサー付きマットがあり、夜間トイレに起きて足で踏むとセンサーが作動するようになっていた。		